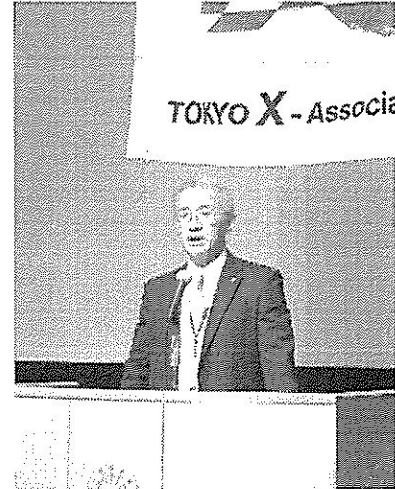


東京Xが総会、23年度は9500頭の出荷目標、役員全員留任



TOKYO X - Association (東京X・植村光一郎会長) は19日午後、東京・八王子の京王プラザホテル八王子で通常総会と記念講演会を開催した。総会で植村会長(写真)は「61社221店舗が加入しており、ことしで創立12周年になる。22年度は8441頭出荷されたが、23年度は生産農家数で28戸、950

0頭を目標にしている。おいしさにこだわり、東京で育てられた文化として取り組んでいきたい」とあいさつ。来賓では東京都農林水産振興財団の斎藤彦明事業課長が「都が開発したものを皆様に使っていただき感謝する。文化を販売し、都・生産者・流通業者がともに協力し合って育成していきたい」と、農場管理獣医師協会の北村直人会長は「管理獣医師協会は安全・安心を伝えるべく取り組んでおり、また文化を積み重ねて行こうとしているが、食べて頂くことが再生産を可能にする。生産から流通まで連携して歴史と文化を重ねていってほしい」と祝辞。この後22年度実績報告や23年度事業計画を承認した。また、役員選任では、植村会長以下、糸瀬好弘副会長、石井政幸、佐藤浩一、小林和人、北村陽三の4人の理事、林実監事、幹事・大根田豊書記長、同・荒川政信書記、同・小石隆二書記の全員を再任した。

講演会では、植村会長が「ボーダレス時代のブランド化戦略」と題して、東京Xの理念やあり方文化等について講演し、①今回指定飼料と主要単身飼料で、NON-GMOとうもろこしを従来の半分以下にして、小麦を加えたことで、肉の獣臭がさらに無くなった②日格協が豚枝肉の規格改正を検討しているが、これまでのコストや増体主体から肉質への評価を高めた新しい方向を開いた。東京Xが誕生して以来の肉質主体が、改めて認められた③東京Xも海外でも情報を発信して、海外からの旅行者などにも大いに食べて頂き、Xの文化に触れて頂く取組みも考えたいなどと述べた。この後、埼玉県優良生産管理農場認定農場の関口牧場の関口博孝代表が「銘柄牛の彩さい牛」の生産取組みと今後の方向について報告した。この中で、東京Xとともに健康で、安全・安心の衛生的な畜産物の生産・供給に取り組み、フードチェーンの確立に今後も務めて行く考えを示した。

5月第2週の牛肉等小売価格、輸入・国産牛とも前週比値下がり  
農水省消費・安全局が公表した5月第2週の牛肉小売価格等調査結果によると、輸入牛肉冷蔵ロースは324円と前週から2円値下がり、国産牛肉冷蔵ロースは662円で同1円の値下がりとなった。豚肉ロースは247円で前週から1円値上がりし、鶏肉モモ肉は128円で変わらなかった。